

## インターバンクの声（2017年2月16日）

前日はイエレン FRB 議長のタカ派的な発言で3月に利上げの可能性が再び高まり、113円台前半から114円台半ばまでドル買いが進んだ円相場だったが、市場が次に注目したのが昨夜の1月米消費者物価指数と小売売上高の発表だった。

1月30日以来115円台に戻らない円相場だが、結局昨夜も114円95銭止まりだった。

その後に発表された米鉱工業生産指数と設備稼働率の低下によって、ドルを買い込んでいた人たちの損切りによるドル売りが、発表前の水準を大きく下回る114円割れまでドルを反落させる場面もあった。

再び113円から115円レンジでの相場が続くような気配に戻ってしまったが、2月の最終週まで目立った経済指標の発表やイベントもなく、行ったり来たり相場を好む一部のシステム系ファンドの独壇場になりそうな雲行きだ。

市場には日米首脳会談とイエレン議長の議会証言をきっかけにドル高を目論んだポジションが残っており、どちらかといえばドルの上値が重い感じだ。

---

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。